

トピックス「ピンクシャツデー」

<ピンクシャツデーとは>

ピンクシャツデーとは、2007年にカナダで誕生した「いじめ反対運動」です。この運動は、「いじめ反対」のメッセージとともに、いじめの問題を個人や当事者間だけの問題ではなく、社会全体の問題と捉え、いじめの定義や、傍観者になることなどを含め、いろいろないじめの問題について考える機会となっています。



<ピンクシャツデーのはじまり>

舞台はカナダのハイスクールです。ある登校日に9年生の男子生徒（日本では中学3年生）が、ピンク色のシャツを着て登校したことをからかわれ、さらに暴行を受け、耐えきれずに帰宅してしまいました。

それを聞いた12年生（日本では高校3年生）の男子生徒2人が、いじめに反対するために何か行動しようと考えました。その日の放課後、2人はディスカウントショップへ行き、ピンクのシャツやタンクトップを大量に買い込み、その夜、クラスメートたちにメール等で、明日、一緒に学校でピンクシャツを着ようと呼びかけました。

翌朝、2人が校門でピンクシャツを配り始めると、思いもよらない光景が目に飛びこんできました。



それは、すでにピンクシャツを着た生徒たちが次々と登校してくる姿でした。ピンクシャツを用意できなかった生徒は、リボンなど、ピンク色の小物を身につけて登校してきました。

2人の気持ちは一夜のうちに広まり、2人が呼びかけた人数よりはるかに多くの生徒たちが、ピンクシャツやピンク色のものを身につけて登校したことで、その日、学校はピンク色に染まったそうです。

数日後、いじめられた生徒はピンク色のポロシャツを再び着て登校してきました。

この行動がきっかけとなり、現在カナダでは毎年2月の最終水曜日を「ピンクシャツデー」とし、賛同者がピンクシャツを着て「いじめ反対」のメッセージを送っています